

プロジェクトファイルフォーマット説明書

1. 適用範囲

本フォーマットは、プリズム画像標定プログラムのプロジェクトファイルに適用する。

2. 概要

1. テキストファイル共通フォーマットを適用する。
2. プロジェクトファイルの拡張子は、「.prjct」とする。
3. プリズム画像標定プログラムでは、任意の数のプロジェクトファイルを引数とし、指定された順にこれを処理する。「(複数指定可)」と明示されたレコードを除き、後に現れたレコードが先のレコードの内容を上書きする。
4. ID レコードを除き、レコードの出現順序は任意とする。
5. 現在、プログラムの運用に必要な最小限のレコードを定義する。

3. レコードの出現順序と形式

3-1. ID レコード

(ID レコード)(必須)

第1レコードは、ファイルの種類を示す。

番号	フィールド名	形式	意味
1	ファイルの種類	A	「Project_File」

3-2. ファイル指定レコード

(ログファイルレコード)

番号	フィールド名	形式	意味
1	レコードタイプ	A	「Log_File」
2	ファイル名	A	ログファイルの名称(パス名)

デフォルト値は、「Log.txt」。ログファイルは追記される。

(残差ファイルレコード)

番号	フィールド名	形式	意味
1	レコードタイプ	A	「Residual_File」
2	ファイル名	A	残差ファイルの名称(パス名)
3	タイトル	A(opt)	残差ファイルに表示されるタイトル

ファイル名のデフォルト値は「Residual.txt」、タイトルのデフォルト値は「」(空の文字列)。残差ファイルは、追記される。

(センサー定義ファイルレコード)

番号	フィールド名	形式	意味
1	レコードタイプ	A	「Sensor_Definition_File」
2	ファイル名	A	センサー定義ファイルの名称(パス名)

デフォルト値は、「SensorDef.txt」。

(基準点ファイルレコード)

番号	フィールド名	形式	意味
1	レコードタイプ	A	「GCP_File」
2	ファイル名	A	基準点ファイルの名称(パス名)

デフォルト値は、「GCP.txt」。

(画像座標観測ファイルレコード)

番号	フィールド名	形式	意味
1	レコードタイプ	A	「Image_Observation_File」
2	ファイル名	A	画像座標観測ファイルの名称 (パス名)

デフォルト値は、「Observ.txt」。

(画像ファイルレコード)(必須)(複数指定可)

番号	フィールド名	形式	意味
1	レコードタイプ	A	「Image_File」
2	ファイル名	A	使用する画像情報ファイルの名称 (拡張子を除くパス名)
3	タイムゾーン	A	タイムゾーンの名称
4	使用フラグ	A1(opt)	任意の文字列 調整に使用しない 省略(「-」) 調整に使用する

(参考) 画像観測ファイルの観測レコードの「画像ファイル名」フィールドで指定された画像ファイルレコードに対するエントリが存在しなければならない。

(画像標定ファイルバージョン指定レコード)(必須)

番号	フィールド名	形式	意味
1	レコードタイプ	A	「Orient_File_Version」
2	入力バージョン	A	入力として使用する画像標定ファイルのバージョン。
3	出力バージョン	A(opt)	出力として使用する画像標定ファイルのバージョン。省略された場合は、出力しない。

(参考) 画像標定観測ファイルの観測レコードの「画像ファイル名」フィールドで指定された画像ファイルレコードに対するエントリが存在しなければならない。

画像情報ファイル、画像標定ファイルの名称は、以下のとおりである。

画像情報ファイル aaa.iminf
 画像標定ファイル(入力) aaa.i.orient
 画像標定ファイル(出力) aaa.j.orient

ただし、aaa 画像ファイルレコードのファイル名フィールドの値

i 画像標定ファイルバージョン指定レコードの入力バージョンフィールドの値

j 画像標定ファイルバージョン指定レコードの出力バージョンフィールドの値

(パラメータ出力ファイルレコード)

番号	フィールド名	形式	意味
1	レコードタイプ	A	「Parameter_Output_File」
2	ファイル名	A	調整結果のパラメータファイルの名称 (パス名)

デフォルト値は、「Param.txt」。

(パラメータ入力ファイルレコード)

番号	フィールド名	形式	意味
1	レコードタイプ	A	「Parameter_Input_File」
2	ファイル名	A	使用するパラメータファイルの名称 (パス名)

本ファイルは、以前の調整結果のパラメータファイルのうち、今回の調整で使用する行のみを取り出したファイルである。利用可能な行は、以下のとおりである。なお、衛星の位置と姿勢に関しては、更新された画像標定ファイルを使用する。

Parameter_File (ID レコード、必須)
 Principal_Position
 Principal_Distance
 Radiometer_Rotation

3-2 . 調整方法

(画面距離調整指定レコード)

番号	フィールド名	形式	意味
1	レコードタイプ	A	「Adjust_Principal_Distance」
2	前方視	L (opt)	前方視放射計の画面距離の調整を行うかどうか
3	直下視	L (opt)	直下視放射計の画面距離の調整を行うかどうか
4	後方視	L (opt)	後方視放射計の画面距離の調整を行うかどうか

デフォルト値は、全て「No」。

(主点位置調整指定レコード)

番号	フィールド名	形式	意味
1	レコードタイプ	A	「Adjust_Principal_Position」
2	前方視	L (opt)	前方視放射計の主点位置の調整を行うかどうか
3	直下視	L (opt)	直下視放射計の主点位置の調整を行うかどうか
4	後方視	L (opt)	後方視放射計の主点位置の調整を行うかどうか

デフォルト値は、全て「No」。

(放射計回転調整指定レコード)

番号	フィールド名	形式	意味
1	レコードタイプ	A	「Adjust_Radiometer_Rotation」
2	前方視	L (opt)	前方視放射計の放射計の回転の調整を行うかどうか
3	直下視	L (opt)	直下視放射計の放射計の回転の調整を行うかどうか
4	後方視	L (opt)	後方視放射計の放射計の回転の調整を行うかどうか

デフォルト値は、全て「No」。

(基準点調整指定レコード)

番号	フィールド名	形式	意味
1	レコードタイプ	A	「Adjust_GCP」
2	前方視	L	基準点の地上座標の調整を行うかどうか

デフォルト値は、「No」。

(調整次数指定レコード)

番号	フィールド名	形式	意味
1	レコードタイプ	A	「Adjust_Order」
2	位置の次数	I (opt)	衛星の位置の補正多項式の次数 (0の場合は、調整を行わない)
3	姿勢の次数	I (opt)	衛星の姿勢の補正多項式の次数 (0の場合は、調整を行わない)

デフォルト値は、ともに「0」。

(姿勢補正空間指定レコード)

番号	フィールド名	形式	意味
1	レコードタイプ	A	「Adjust_Altitude_Space」
2	前方視	A1	衛星の姿勢の誤差を補正する空間(追加回転角を定義する空間) 「S」 衛星座標(「Sat」) 「E」 ECR(地球共回転地心座標)(「ECR」)

デフォルト値は、「ECR」。

3-3 . その他

(デフォルトジオイド高レコード)

番号	フィールド名	形式	意味
1	レコードタイプ	A	「Default_Geoid_Height」
2	ジオイド高	F	デフォルトのジオイド高

デフォルト値は、「0」。基準点ファイルで、基準点ごとにジオイド高を指定することができる。

(検証点指定レコード)(複数指定可)

番号	フィールド名	形式	意味
1	レコードタイプ	A	「Verification_Point」
2	点名	A	検証点とする基準点の名称

注意：検証点指定レコードで指定された場合、調整計算の上では、対空標識のあるタイポイントとして処理される。

(削除地上点指定レコード)(複数指定可)

番号	フィールド名	形式	意味
1	レコードタイプ	A	「Deleted_Point」
2	点名	A	削除する点(基準点またはパスポイント)の名称。指定された場合には、その点に関する全ての観測は、調整計算に使用されず、調整値も計算されない。

注意：検証点指定レコードと削除地上点指定レコードの双方に指定された場合は、削除地上点指定レコードの指定が優先される